

ビタミン活動レポート

7/9 日高市消防団
～第一分団消防車両の新車お披露目会～7/14 ビタミン通信第1号配布
～高麗川駅前にて～8/2 県知事選挙の駅頭活動
～横尾議員・大沢議員・和田議員と～8/28 日高市商工会青年部夏祭り
～輪投げで割引チャレンジ、かき氷販売～9/2 日高市商工会青年部奉仕活動
～巾着田清掃～9/3 日高市総合防災訓練
～地元消防団の皆さん、閉会式の様子～9/30 巾着田曼殊沙華ライトアップ
～会派「みらい」大沢博行代表と～

地元NEWS



そば打ちができる「巾着田水車小屋」
老朽化に伴い、水車が動かなくなっていました、
補正予算が議決し、改修工事決定！
本格的なそば打ち体験工房として、
活躍することが期待されます！



台風19号の影響で崩壊していた木橋3橋
通称「ガタガタ橋」と呼ばれ、地域の生活道路として
欠かせない存在です。
災害復旧工事が進み、10月3日より、順次開通予定
久保ノ下橋：10月3日より開通
新井橋：10月3日より歩行者通行可
新堀橋：工事中

よくきく・すぐきく・まちにきく
日高のビタミン通信

日高市議会議員

加藤しょうご

“9月定例議会”ホットトピックス

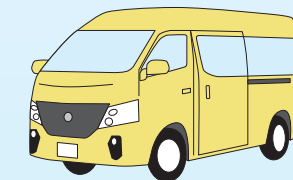


～「新公共交通サービス」実現の第一歩！～

- 「日高市地域公共交通協議会条例」
- 「地域公共交通活性化推進事業の
ための補正予算」

議決！！

日高のビタミンとして、選挙公約に掲げている「行きたい時に行きたい所へ行くこと
ができる新交通システムの実現」。6月定例議会において一般質問した日高市独自の「地
域公共交通計画の策定」のための「法定協議会の設置」について、令和5年9月の定例
議会において、「日高市地域公共交通協議会条例」「地域公共交通活性化推進事業のため
の補正予算」が議決されました。



トピック

①

「日高市地域公共交通協議会条例」

日高市の実情・ニーズに即した持続可能な交通サービスの実現を目的とした「地域公共交通
計画」の策定に向け、協議を行う組織「日高市地域公共交通協議会」を設置することが定めら
れています。

地域公共交通計画の策定は、地方公共団体ごとに努力義務とされており、いよいよ、日高市
において「新交通システム」の実現に向けた取り組みが、動き始めました。

トピック

②

「地域公共交通活性化推進事業のための補正予算」

新交通システムの実現に向けた「調査委託料」や「法定協議会の運営費用」が含まれる事業
費として、13,475,000円が令和5年度の補正予算として議決されました。
本年度中に設置が予定されている法定協議会には、地元に移送に関わるボランティア団体にも
協力を仰ぐ見込みです。

しょうご
ひとコマ

2023年9月13日、2回目の一般質問を、今回は議会トッ
プバッターでおこなってきました。市議会議員となり5か月、
地域の皆さんよりいただいたご意見から、市政に対して一般
質問をしました。今回も、多くの皆さんに日高市役所まで傍
聴にお越しいただき、ありがとうございました。

支援者の皆さんの声をひとつひとつ、日高のビタミン加藤
しょうご、引き続き、頑張ります。



政治活動届出団体

加藤しょうご後援会

<https://vitaminkato.wordpress.com>

LINE公式アカウント



ホームページ



Facebook



Instagram

〒350-1236 埼玉県日高市大字猿田37-4 ☎042-985-6135 FAX:042-985-0667 ✉hdk.vitamin@gmail.com

ボランティアの
おねがい

ビタミン通信は今後も定期的に発行していきます。地域やお知り合いにお配りいただける仲間を募集中です。
ご興味のある方はぜひ、上記の加藤しょうご後援会までご連絡ください。よろしくお願いします。

4つの提言



市政に対する一般質問



その① 緊急車両が家の前まで進入可能な安心・安全な道路整備を目指す！



現状と課題

狭あい道路とは？

軽自動車を通るのがやっとのような道幅 4 m未満の道路。災害時の避難路、消防車、救急車の往来など安心・安全な環境を形成する上で問題があります。特に高麗地域は、山林や畑に囲まれた生活狭あい道路の先に住宅があるケースも多く、有事の際に心配との声を多く聴きます。狭あいを解消し、安心安全な生活道路を推進していくためには、行政主導のもと自治会との連携が必要不可欠であると主張しました。

一般質問

- ☐ 加藤しょうご 市民の声として「困っているが拡幅は難しいのでは」「仮に地権者全員から承諾書をもらえたとしても市で拡幅整備を進めてもらえるのか」と、ネガティブな意識を持っていると感じます。市民の考え、要望をどのように認識しているか。
- ☐ 都市整備部長 狭あい道路を対象とする道路整備の実施は、4 m以上の約 1,000 路線も合わせた状態で道路整備の優先順位を決めた上で、事業を実施する必要があると考えます。
- ☐ 加藤しょうご 優先順位には、地域住民の声が反映されることが大切と考えます。地域要望は考慮されているか。
- ☐ 都市整備部長 道路行政について、地域住民の声を反映させるため、区長要望として提出いただき、雨水修繕や舗装修繕を実施している。区長要望は、地域の身近な要望を取りまとめた上で提出されることから、地域住民の声が反映されているものと考えます。
- ☐ 加藤しょうご 特に高麗地区で見られる、家と家の間が 100m以上離れた通り抜け生活道路は、山林や農地に囲まれており、セットバックによる道路後退の可能性はありません。行政が主導し、自治会と連携しなければ有事の際に緊急車両が往来できる安全な道路整備は進みません。こういった市道の整備の見解は。
- ☐ 都市整備部長 地元の声である区長要望も踏まえながら、市全体の路線整備の優先順位を決めた上で、事業の検討を行う必要があると考えております。

その② アクティブシニアの活躍支援を広げるために！



現状と課題

少子高齢化の進む、本市の高齢者の割合は33.76%、おおよそ 3 人に 1 人が高齢者であります。それまでの長い人生の中で培ってきた、能力や経験を発揮できる場所を創り、アクティブシニアが地域社会の担い手として活躍することは、生きがい創出に加え、市が抱える様々な問題の解決し、活力あるまちづくりに必要不可欠であると考えます。シルバー人材センターで働く方々は、自分が住んでいる地域の役に立つ仕事をすることで、地域社会に貢献し、正に生涯現役として活躍をしており、シルバー人材センターは、身近な就業支援施設であると同時に、高齢者の皆様が健康で生きがいのある生活を送っていく上で、大変重要な役割を果たしていると考えます。近隣市において、シルバー人材センターの活性化と地域課題解決を目的として、積極的に就業開拓や職種を広げる取り組み、女性会員の活動推進がされております。本市においてもこのような取り組みを市が支援していくべきと主張しました。

一般質問

- ☐ 加藤しょうご アクティブシニアの就業ニーズについて、主にシルバー人材センターに寄せられる声を含め、どのようにニーズを把握されているか。
- ☐ 健康推進部長 新規会員登録時に職種や、就業日数や時間などの希望を聞いている他、登録時以外でも随時希望の変更や追加も可能。また、職種では施設管理や事務系の希望が多く、就業日数ではフルタイムの勤務ではなく、週に 2 ～ 3 日の就業を希望される方が多いと認識しています。
- ☐ 加藤しょうご 希望の多い屋内での施設管理や事務系の仕事は具体的にどの程度あるか。
- ☐ 健康推進部長 施設管理業務として、公民館の夜間管理人等があります。民間企業からの事務作業の依頼はありません。また、臨時的に依頼がある事務的な軽作業として、郵便物の封入作業等があります。
- ☐ 加藤しょうご 近隣他市のような、就業開拓や職種を広げる取り組み、女性会員の活動推進について、本市における現状と課題は。
- ☐ 健康推進部長 植木の手入れや除草の依頼が特に多く、既存の業務にあたる新たな人員確保が中心となっております。就業ニーズとして、施設管理や事務系の希望が多く、受注する業務と会員の希望をバランスよく両立できるよう支援してまいります。

こちらから一般質問の様子をご覧ください！



その③ 福祉サービスのより分かりやすい周知に向け、地域おたすけ隊との連携強化を！



現状と課題

令和 2 年度の国勢調査によると、市内の高齢者の単身世帯数は「2771 世帯」。

市や社会福祉協議会 HP を確認すると、地域の高齢者が可能な限り、住み慣れた地域で生きがいを持ち、自立した日常生活を送るためのサポートメニューは多岐にわたります。しかし課題は、市内在住の後期高齢者が、その制度について知らないこと、調べる方法がないことにあると考えます。高齢者向けの福祉サービスの周知に関しては、より分かりやすく、例えば直接身近な方から伝えていただけるような仕組みがあるとよいと考えます。そこで、地元地域でのお困りごとに関して、「おたがいさま」の気持ちを行動で広げる「まちづくり」活動ボランティア団体「地域おたすけ隊」との連携強化を提案しました。

一般質問

- ☐ 加藤しょうご 地域で活躍するボランティア団体「地域おたすけ隊」と連携を図り、福祉サービスを周知の方策は。
- ☐ 福祉子ども部長 地域おたすけ隊を通して、様々な高齢者向けの福祉サービスを周知することは、困っている高齢者の方にとって非常に有効な手段であると考えます。地域おたすけ隊のサービスは各地域が日高市社会福祉協議会の委託を受けて行われておりますので、周知の方策について当協議会と協議しながら取り組んでいきたいと考えます。
- ☐ 加藤しょうご 地域おたすけ隊の窓口、サロンは最も身近な相談所であり、福祉サービスの利用向上が期待されます。また、コーディネーター・活動員もより活発なコミュニケーションがとれ、生きがい作りにもつながる重要な役割を果たすものと考えます。こま地域おたすけ隊に拠点となる場所がないが、拠点確保における課題は。
- ☐ 福祉子ども部長 広さ、駐車・駐輪のスペース、集いやすい立地といった条件と、賃借料の折り合いが課題。社協と連携し、拠点の確保に協力していきたいと考えます。

その④ 認知症へ理解を広める取組として本市にチームオレンジ設立を！



現状と課題

日本において、認知症高齢者は 500 万人いると言われ、今後更に増加することが見込まれます。2025 年には 65 歳以上の高齢者の 5 人に 1 人が認知症になる予測であり、今や認知症は誰もが関わり合う可能性のある、身近な病気です。認知症の方や介護者への支援と併せて、認知症への理解を広める取り組みもまた、ますます重要になっていくものと考え、「チームオレンジ」の設立について主張しました。

一般質問

- ☐ 加藤しょうご 認知症への理解を広めていくためには、認知症サポーターと呼ばれる認知症に対する正しい知識を身につけ、理解された方々の役割が大変重要になってくると考えます。認知症サポーターの活躍の場として、周辺市町村では、認知症の方々が暮らしやすいまちづくりを目指して活動している団体「チームオレンジ」が設立されております。本市においても、チームオレンジの団体設立が重要であると考えますが設立に向けた考えは。
- ☐ 健康推進部長 チームオレンジは、埼玉県内で 23 市町村に整備されております。国の認知症施策推進大綱では、令和 7 年度末までに全市町村で整備することが目標として掲げられており、本市においても埼玉県が任命しているオレンジチューターの支援を受け、チームオレンジの設置に向けた準備を進めております。
- ☐ 加藤しょうご オレンジチューターの支援の現在の実施状況は。
- ☐ 健康推進部長 今年度、チームオレンジの設置に向けて、オレンジチューターと認知症推進員、市担当職員で、手順を確認するための打ち合わせ兼勉強会をすでに 2 回実施。オレンジチューターを講師に迎えて、チームオレンジをテーマとした「認知症サポーターステップアップ講座」を実施する準備も進めております。